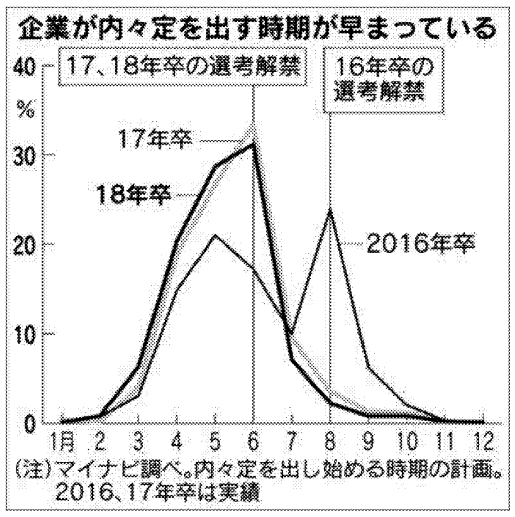
就活 空前の売り手市場

「面接に来て」焦る企業

2018年卒業の大学生の採用活動で、主要企業の選考面接が6月1日に始まるのを前に、企業が面接に学生を集めようと知恵を絞っている。学生の売り手市場が続くなか、6月以降の面接に一定数の学生を確保できないとの焦りが募っている。優秀な学生に自社の魅力をアピールしようと、地方都市に積極的に出向くほか、学生に面接を受けてもらうよう直接働きかける。



(注)マイナビ調べ。内々定を出し始める時期の計画。2016、17年卒は実績

選考解禁を前に地方行脚

「5月中旬までに採用予定数の6～7割の学生から内定承諾を得た」。サイバーエージェントの担当者は安堵の表情を浮かべる。同社は今年から、社員が就活生のもとに出向いて説明会と面接を併せて実施する採用活動を始めた。面接を受けたいという学生から要望があれば、全国47都道府県のどこでも出向いて11カ所で実施した。

学生との接点づくりが課題に（3月、都内で開かれた企業説明会）

人手不足を受けて学生の奪い合いが激しくなる中、「地方都市にも優秀な人材はたくさんいる」（同社）と分析。地方都市での採用強化で、選考活動が本格化する6月前に一定数の学生確保につなげた。

三井住友海上火災保険は今年から東京と大阪の2都市で開催していた説明会を、仙台や広島など8都市に拡大した。社員と学生が懇談できるようにして、首都圏以外の学生にも魅力をアピールする。地方支店のインターンシップ（就業体験）も前年から約4倍の35カ所に増やし、選考に応募する学生も増えたという。

イオンリテールは東北など地方で営業する総合スーパーで説明会を初めて実施した。これまで地方の学生はテレビ中継で会社説明会に参加していたが、店長ら社員が仕事の内容を直接説明するように改めた。

キヤノンは地方大学の学内説明会にも積極的に出向き、地方在住の学生との接点を増やしている。テルモは今年から初めて北海道でも会社説明会を実施した。

各社が地方での採用活動に力を入れる背景には、学生の売り手市場がある。就活支援のリクルートキャリア（東京・千代田）によると、18年卒の大学生の3人に1人が内定を確保した。優秀な学生を確保するためにも、「まずは面接などの採用活動に申し込んでもらうことが重要」（大手総合商社）と考える企業は多い。

企業から学生に面接などの参加を呼びかける「逆求人」を利用する企業も増えている。アイプラグ（大阪市）が運営する専用サイトの「オファーボックス」では利用企業が2520社と昨年3月末に比べ7割増えた。

今年からオファーボックスの利用を始めた福井銀行は学生のエントリーを受け付ける「待ち」の採用だけでは人材確保が難しくなると判断した。

大卒就職率、今春最高97.6%
人手不足で積極採用

文部科学、厚生労働両省の調査によると、今春卒業した大学生の就職率（4月1日時点）は前年を0・3ポイント上回る97・6%で、1997年の調査開始以来最高となった。上昇は6年連続。求人増で学生の就職意欲が高まり、卒業者に占める就職希望者の割合（就職希望率）も74・7%と最高を更新した。両省が19日発表した。

就職率は就職希望者のうち、実際に仕事に就いた学生の割合。全国の国公私立大62校の4770人について調べた。

人手不足などを背景に企業側は採用を活発化。大和証券グループ本社は今年4月入社の採用数が当初計画（643人）を上回る700人になり、うち678人が入社した。

女性を積極採用する姿勢もうかがえる。文科省などの調査によると今春の女性の就職率は2016年比0・4ポイント増の98・4%で、5年連続で男性を上回った。

文科省は「女性の活躍を支える国や企業の取り組みも、社会進出を後押ししたのではないか」と分析する。

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。